

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム みちの木 2階	評価実施年月日	平成22年 1月 7日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年 1月15日

北 海 道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「地域の中でその人らしく暮らすこと」とはを考え、昨年、運営者・管理者・職員全員でサービスを振り返り、もう一度理念について考え、現在の理念となった。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念について、全員で向き合い、考え、話し合うことができた。取り組みの中での問題点・疑問点が出た時は理念を再確認し、実践へと結びつけている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には、理念に基づいたケアについて、ご理解いただき、共に実践していただけるよう、来訪時・お便り・家族会等で説明している。地域の方には「みちの木まつり」の開催や運営推進会議報告書を配布したり、日常の暮らしの中の関わりとして行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>近隣の人には、率先して挨拶や声かけを行うことを心掛けている。畑作り、除雪等日常生活において、ご指導や助言をいただいている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に加入し、出来るかぎり行事等に参加している。近隣の小学校に働きかけ、行事へのお誘いをいただき参加させていただいている。ゴミステーションを設置し隣近所に利用していただいている。毎年「みちの木まつり」を開催し、地域の方への参加を呼びかけている。</p>	○ リングプル収集の協力を継続的に行い、児童会等相互間の交流へと広げていきたい。また、小中学校の福祉の外部授業の場として取り入れていただけるよう働きかけを行っていきたい。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域の高齢者について、気になる点や情報は伝達しているが、具体的な話し合いには至っていない。見学等に來られたり、興味があり立ち寄られた方には介護相談に応じている。</p>	○ 広い視野を持つ為にも、研修等で取り上げるなど話し合える機会を作りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>実践を振り返りながら自己評価を行っている。全員で話し合い、取り組みを行っている。又、外部評価の意義は理解されており、評価に対してはミーティング等で話し合い改善を行っている。</p>		
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>サービスの実際、取り組みの状況、活動報告等を行い、ご意見・ご感想をいただいている。話し合いや検討を行い、その都度お答えしサービスの向上に結びつけている。</p>	○	<p>今後も多くの方が参加していただけるような魅力ある会議を開催していきたい。身近な会となるよう意見をいただき「みちの木 森の会」の名称で今後は開催することとなった。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>不明点などは、その都度電話や窓口にて相談・指導を頂いている。また、認定更新の際等にご利用者のニーズ、生活のご様子、ご家族の意向等を具体的に伝えている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修会等には参加出来るようにしている。ミーティング等で将来の必要性について話し合うことはあるが、現在は必要性はなく、関係者と話し合い活用するというような支援には至っていない。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>研修会に参加している。日々のケアの中での疑問や不安は、都度話し合いを行い、見過ごさないよう気づきを大切にすることを心掛け、防止に努めている。</p>	○	<p>気づきをスタッフ間でも今以上に伝え合える環境を考え、振り返る場を設ける。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約時は全て読み上げ、わかりやすいように補足しながら行っている。不安や疑問点はその場で確認しているが、実際の生活の中で出てくるものもある為、その都度、疑問・不安についてはご理解いただけるように説明している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常会話や関わりの中で、直接の訴えではなくても汲み取れるよう努めている。意見、不満、苦情をいただいた時は、早急にミーティング等で話し合い改善に努めている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>月1回、「みちの木便り」にて、活動や行事報告を行い、その他にご利用者様それぞれの健康状態・生活の様子等を書いたものを作成し郵送している。金銭管理は来訪時に出納帳をご確認いただいている。通院や生活の中で変化が見られた時は都度、電話にて報告を行っている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来訪時に確認している。又、家族会にて意見をいただき、報告書にて返答・対策等を知らせている。重要事項説明書に外部機関を明記している。又、契約時には口頭でお伝えしている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>運営者は年に1～2回職員と面談し、意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は日常的に行えるよう努力している。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>ご利用者様の生活リズムや状況の変化に応じ、勤務時間の変更をしている。又、行事時などは勤務時間や人員数を調整している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>合同で行事を行ったり、日常的に職員はもちろんのこと、ご利用者様も行き来している。ユニット間の異動は最小限に留めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>採用時には、社内マニュアルを活用し、研修を行い月一回のフロアミーティングの際にも、その時々の内容で研修を折り込んでいる。又、外部研修の情報も都度知らせ、受講を促している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>全国介護事業者協議会や、日本認知症グループホーム協会に入っており、又、清田区ケア連絡協議会やシルバーサービス振興会の研修等にも参加、ネットワークを広げ、サービスの質の向上を意識して取り組んでいる。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>常日頃より職員の表情を気にかけてたり、一声かけながら気軽に話せる雰囲気になるよう努めている。又、親睦会や新年会の集まりには出来るだけ参加してもらえよう、促している。一人ひとりの誕生日には健康で業務に勤しんでくれることに感謝する意味も込めて、花束を贈っている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>年に一度、新年会にて介護福祉士の資格取得者や勤続年数にて表彰をし、精勤を奨励している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーの情報を加味しながら、出来るだけご本人と面談させていただけるようお願いし、ご本人自身の多岐にわたる思いを汲み取れるよう努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>電話での相談はもちろんだが、なるべくご見学していただくことをお勧めし、お会いして、現在のサービス利用状況や今までのご家族のご苦労やご本人に対する思いやご要望等を聞かせていただき、段階的に信頼関係を築くことができるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	詳しい現況をお伺いし、どの段階なのか何を必要とされていて、どの様な思いを大切にされているのかを見極め、他のサービスや対応方法等のアドバイスも行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人の現状把握に努め、ご本人に何が必要なかの理解を深める為、ご家族に報告・相談を行いながら検討している。職員、他利用者との関係性は段階的に見極めながら行っている。サービス開始検討時は、ご家族・ご利用者様に他のご利用者様と一緒に過ごしていただける時間を提供し、積極的に参加していただけるような場面作りもしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	暮らしの中で、今まで培ってこられた知恵や技術を意図的に引き出すことで、教えていただいたり、一緒に一つの事を行う等支えあう関係性を築くことに努めている。又、ご利用者様が生き生き出来る場面作りを心掛けている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時・電話・月1回のお便りにて生活状況を報告し、ご本人の現況を理解していただいたうえで、相談・協力を頂いている。行事等の参加も呼びかけ、職員と共にご本人との思い出づくりをしていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人の情報をご家族と共有し、信頼関係を築くことにより、より理解を深めていく。来訪時には、ご本人とご家族が気持ちよく会っていただけるよう、話題・場面作り等に、配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	月1回行われる、ご家族による絵手紙教室での作品は必ず、ご家族や知人等に郵送している。その事により、手紙や電話が来たり、ご来訪して下さっている。ご本人の思いや希望をご家族にお伝えし、一緒に考え、検討していただいている。	○	馴染みの場所への外出は、ご家族に対応していただいていることがほとんどであるが、出来る範囲での対応も検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ミーティング、申し送り等で細かい情報を共有し、出来るだけ、ご利用者様同士で関係性が保てるよう見守っている。ご利用者様のその時々の方々の心身の状況を見極め、必要に応じて介入し、孤立しないよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	行事参加への誘いや相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の何げない会話の中から、思いや希望を見逃すことなく拾い上げることを意識する為に、気づきはセンター方式のシートにそれぞれの職員が書き留め、ミーティング等で情報を共有し把握に努め、必要時は検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式により、ご家族より情報をいただいている。暮らしの中で得られた情報は、ご家族に確認を行い、より正確な情報の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	在宅での過ごし方(生活のリズム、活動等)を把握し、現在の一日の流れの中で、出来ること、わかることに着目し、チームとして総合的な把握が出来るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族には来訪時や電話にて伺っている。ご本人からは暮らしの中で、汲み取るよう心掛けている。また、医師・訪問看護師にも相談し、意見や指導をいただくこともある。職員は各自が全ご利用者様のモニタリングを行っており、ミーティング等の意見・アイデアも介護計画に反映されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じての見直しはもちろんのこと、変化が生じた場合には、現状に即した計画作成を行う為に、都度モニタリングを行い見直しを行っている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子で気が付いた点やケアの結果等を個人記録及び業務日誌に記入し、情報の共有に努めている。必要に応じてミーティング等で検討し、介護計画の見直しに活かしている。	○	今以上に個人記録を情報共有のツールとして活用し、介護計画に活かす為に、ご本人の言葉・行動の大切さを理解し、記録に落とし込んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	外出・外泊・通院時へのご要望等には出来る限り、職員間の連携により、支援や準備を行っている。ご本人の状態やご家族の意向に配慮しながら、ご家族への食事提供の声かけや宿泊等の対応もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要性に応じて、地域資源と協力しながら支援できるよう努力している。	○	オープン当初より、平岡中央小学校の資源回収場所にしていただいている。更に交流が深められるようリングブル回収に協力している。運動会・学習発表会にも招待していただき参加している。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	必要と思われるサービスにおいて、サービス事業者等から情報をいただきながら、ご家族とも充分に話し合いを行いながら支援している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議のたびに、地域包括支援センターの職員の方に出席いただいている。それにより活動もご理解いただき、周辺情報、支援に関する情報交換・提供等、協力関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	心身の状況を伝え、指示・指導をいただいている。また、ご本人・ご家族の要望も伺い、医師に伝えている。必要時には、ご家族の同伴もお願いしている。		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	専門外来を受診している。日常の様子・変化等を伝え、利用者への負担が最小限になるよう、相談をしながら指導・指示を頂いている。症状の大きな変化時は電話にて対応もしていただいている。ご家族へ随時、状態をお伝えし理解していただいた上での受診を支援している。		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	訪問看護師により、健康管理及び対応への指導や助言をいただいている。電話等でも相談を行い、必要時は病院との連携・調整を行っていただいている。		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	医療ソーシャルワーカーと出来るだけ密に連絡を取り、情報交換・提供を行い、相談や意向の伝達等を心掛けている。		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	ご本人とは、日常会話の中から抽出が出来るよう心掛けている。全ての方には至っていないが、ご家族、かかりつけ医と方針を共有している方もいる。	○	全ての方と方針の共有が出来ていない為、随時、面談等により意向を確認したい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	医療機関との連携および対応は状況に合わせて、話し合いを行い取り組むことになっている。	○	ご利用者様の状況を冷静に受け止め、「その方にとって」を大切に、チーム支援が行えるような体制を整えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住替え先でも、現在の対応が出来るだけ継続できるよう、情報提供・確認・交換を行っている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーの確保の徹底を行っている。疑問が生じた時はその場やミーティングで取り上げ、検討し改善へと結びつけている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々のわかる力に合わせた、方法・言葉・表現を考えながら、出来るだけご利用者様の時間の流れに合わせ、自己決定へと結びつけている。思いや希望は集団時及び個別時それぞれに意図的に促しを行い確認することもある。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々、ご利用者様との関わりの中で、その日をどう過ごすかを投げかけ、希望を伺うようにしている。うまく表現できない方には提案・相談をしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>季節や外出に合った洋服を一緒に選んでいる。知り得た希望はご家族に相談やお願いをしている。理美容は訪問美容を利用している。本人および家族の希望を伝えている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>会話の中で好み、希望をうかがっている。その方の出来ること、出来そうなことに合わせ一緒に準備・食事・後片付けを行っている。メニューや食材を伝え、食事が楽しめるようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	身体状況・病状に影響や支障のないものは楽しめるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターン、身体機能、皮膚の状態等をミーティング等で確認・共有を行い、おむつの必要性の有無を状態に合わせて検討している。その日、その時の心身の状況を職員間で理解し、習慣やこだわりに合わせて排泄行為へと結びつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	職員間で連携を取り、職員の都合ではなくご本人のタイミングや希望に出来るだけそえるよう配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝、起床時間は決められていない。就寝中の見回り時に窓の開閉・室温・就寝状態を確認している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりに合わせた自信の持てる日常の役割分担が出来ている。四季折々の行事に向けたレクリエーションや食事、誕生会、外出を行っている。季節の良い時は積極的に屋外に出るようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持が可能な方は、買い物等で使用している。所持されていなくとも、預かり金よりお渡しし買い物をしていただくこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ご利用者様同士の会話の中から、職員が希望を汲み取り行っている。出来るだけ対応出来るよう心掛けている。	○	ご利用者様も「みんなで」という思いがあり、個別対応はほとんど出来ない為、希望の引き出しに努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	みんなで行ける場所(車椅子対応、トイレ等の設備、受け入れ体制)を検討・提案し、行っている。予定が早く組めるときは家族へ参加の呼びかけをしている。家族に本人の希望を伝え、検討していただいている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	月1回の絵手紙教室(家族主催)での作品を、家族・知人等本人が希望する所へ郵送することで、電話や来訪へと結びついている。電話は自由に使ってもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間は特別決めていない。急な外出も多いため、遠方から来ていただく際にはすれ違いにならないようにご一報いただけるようお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束だけではなく、抑制に結びつく行為・言葉にも気をつけている。職員は自らの行為の振り返りを行い、疑問や不安は話し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室及び玄関は日中は鍵をかけていない。	○	安易に施錠することの弊害は、日常の関わりの中で理解し、検討できる様な環境作りを更に配慮したい。
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	行動パターンやその時々々の心身の状態、症状出現時の把握や変化をチームとして見逃さず、連携を取り、各ご利用者様にとって良い状況作りに配慮している。	○	慣れによる状態変化の見逃し等がないよう、職員の情報の共有がスムーズに行える関係性をより深められるようにしたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご利用者様の身体機能や認知の段階を見極め、危険と思われる時はミーティングで検討、ご家族に相談後、保管させていただいている。使用中、使用後は確認している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ひやりはつと報告書により、全職員が確認を行っている。更に、口頭伝達により対策を検討し、再発防止に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	2/3以上の職員が、救急救命講習を受講しているが、定期的には行っていない。	○	定期的に更新が行えるようにし、職員の安心も確保出来るよう取り組んでいきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練を行うと共に、自主訓練を行い、問題点等を抽出し改善をし、より良い方法等を考えている。運営推進会議にて報告等を行っている。	○	色々なパターンでの自主訓練も考えていきたい。地域の方には、訓練等に参加していただけるような働きかけを行っていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	来訪時及び電話での報告、ケアプラン説明時、月1回郵送の「生活の様子」にて普段の様子を理解していただいた上でリスクについて説明後、相談を行いご利用者・家族の双方にとって負担の少ない対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	生活行動・排泄状態・顔色・バイタルチェック等からの変化に注意し、連携・情報共有をし、確認を行いながら対応している。必要時は、訪問看護師や病院に指示をいただき、対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬情報をすぐに確認できるようにしている。変更等があった時は、業務日誌及び口頭で伝達している。特に注意が必要な時はミーティングにて再度、説明や確認を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	薬に頼るだけでなく、食事(食材)・水分量(乳製品等)の工夫やマッサージなどを行い、出来るだけ自然な排便が出来ることを考え、取り組んでいる。	○	変化を見逃すことなく、一人ひとりの特徴に合わせた、苦痛の少ない取り組みへと更に続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	必要性にあわせた口腔ケアを受けている。歯科医・衛生士と連携を取りながら能力に応じた支援をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる楽しみをそこなわないように、疾病に合わせて食事量、水分量を調整している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルに基づき、点検・指導している。「病原菌を持ち込まない・持ち出さない」為に、うがい・手の洗い方・手指の消毒に充分配慮している。布巾、まな板は毎日消毒している。季節に応じた注意事項に気を付け対応している。	○	感染症発生の最新情報に留意し、情報の正しい理解と収集、予防策を共有する取り組みを継続していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	布巾やまな板は毎日消毒している。季節に応じた注意事項に気をつけ対応している。食材は職員が新鮮さを確かめながら購入している。賞味期限をチェックし書き出し、使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープの設置。玄関前には出来るだけ駐車せず、出入りがしやすいように気を付けている。風除室は季節感を取り入れる為、ご利用者様の手作りのモール等が展示されている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビングの出窓や採光を生かした、季節に合わせた飾りつけ(ご利用者の作品等)を行っている。音や光で不快と思われる時は都度、対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	バルコニーやバルコニー前の踊り場に場所作りをしている。休憩の場や会話・交流の場となっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来るだけ馴染みの物や好みの物を用意していただいている。居室扉横にメモリアルボックスを設け、ご本人がご自分の部屋であることがわかるように、馴染みの物や写真を飾っている。ご家族と共に居心地のよく過ごせるよう、検討し工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の際は窓を開けていただけるよう促している。又、臭いに対しては必要に応じ換気している。消臭ボード、脱臭剤等を使用している。温度調整は暖房はサーモにより管理されているが、状況に応じてこまめに対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内バリアフリー。エレベーターを設置し使用している。ご利用者様の安全性を考え、身体能力に合わせ、手すりの増設を行っている。	○	ご利用者様の状況を見極めながら身体機能を活かす環境作りを検討していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	出来ること、出来そうなことの見極めを慎重に行い、一人ひとりに合った対応を職員全員で検討し、極力自信を失うことなく安心して暮らしが継続できるように努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭で野菜や花づくりをしている。季節が良いときは庭や、玄関横スペースで食事を楽しまれている。バルコニーでもお茶を楽しまれたり、洗濯物を干している。又、一人の時間やご利用者様同士での時間も楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

職員は入居者と向き合い、ご利用者の笑顔を大切に、喜怒哀楽を受け止めながら共に過ごす(暮らす)ことを心掛けています。又、ご家族とご利用者の橋渡しとなり、良い関係性を継続することで共に過ごす時間を大切にさせていただけるよう支援し、ご家族と職員が共にご利用者を支えていることに努めています。